

## 産業ロボ業界と共同研究

# 農福スマート化育む

障害者施設と産業用ロボット業界がタッグを組み、農福連携の現場にスマート農業を取り入れる研究開発が始まっている。病害虫の防除や、収穫時期の見極めなどにロボット技術を取り入れることを想定。障害を技術で補うことで、障害者の活躍の場を広げ、雇用の拡大を目指す。

(長野郁絵)

### コチヨウラン栽培のNPO

障害者施設を運営しコチヨウランを栽培する千葉県富津市のNPO法人アロンアロンと、産業用ロボットの導入を支援する茨城県土浦市の日本サポートシステム(JSS)、工場のスマート化に関わる企業でつくる共同事業体チームクロスFAの3者が挑む。

JSSの天野眞也社長がコチヨウランのハウスを視察し、環境制御装置に関心を持ったことが連携のきっかけだ。スマート工場の技術を農

アロンアロンで試験栽培しているマンゴー。栽培に携わる障害者と話す那部理事長(千葉県富津市)



福連携に生かそうと考え、有限責任事業組合クッテグアを2021年に立ち上げた。アロンアロンのハウスを使

## 防除など想定 障害者雇用拡大めざす

いマンゴー栽培で研究、開発する。同法人の那部智史理事長は「収穫のような楽しい作業は残し、病害虫防除など大変で難しい作業をロボット化したい」と期待、天野社長も「技術的には可能」と意欲を示す。

具体的には病害虫を発見、駆除するロボットや収穫時期を見極めるVR(仮想現実)眼鏡などを想定する。現在は、冬場の暖房に遠赤外線パネルを使った環境制御装置の試験を行っている。

栽培はアロンアロンの障害者施設で仕事を覚えた障害者がJSSに就職。再び同施設に向かう形で担う。

天野社長は「人を助けるのが技術。テクノロジーによってハンディキャップを埋めていく」と強調。アロンアロンの那部理事長は「農福連携に技術が加わることで、障害者が楽しく生き生きと働ける場が増えれば、連携や障害者雇用も広がる」と期待する。